



校長室だより

2026年9月24日

丹波市立進修小学校長

自分らしく あなたらしく ～性教育・ジェンダー平等教育について考える～

9月18日の参観日には、たくさんの保護者の方にお越しいただきありがとうございました。

今回の授業参観では、各学年で「性教育・ジェンダー平等教育」について考えました。大きく整理すると次のようなねらいがあります。

① 自分らしさを大切にする

性別に関係なく自分の好きなことや得意なこと、感じ方を大切にする。

自分の性のあり方や生き方について、自分自身を肯定的に捉える。

一人一人違っていいという感覚を育てる。

② 多様な性のあり方を知り、違いを認め合う

性には「男・女」だけでは捉えきれない多様なあり方があることを知る。

性別、性自認、性的指向など、人によってさまざまな違いがあることを理解する。

③ ジェンダーによる「決めつけ」「思い込み」に気づく

無意識のうちに持っている「男らしさ・女らしさ」の思い込みを見直す

性別によってやりたいことや可能性を狭めない態度を育てる

④ 誰もが安心して過ごせる関係をつくる

性別や性のあり方を理由としてからかい、いじめ、差別を許さない。

相手の「嫌だ」「困っている」「こうしてほしい」という思いを尊重する

⑤ 自分で考え、選択する力を育てる

本校の目標でもある「自律する力を育てる」とつながり、「自分はどうしたいか」

「相手はどう感じるか」を考え自分で決める。

これらのねらいを意識しながら、各学年に応じた内容で授業を行いました。ご覧いただいた通り、「知識を身につける」ことだけではなく、「自分は自分のままでいい」「人と違っていてもいい」「相手も自分と同じように大切な存在である」そんな思いを子どもたちに育てていきたいです。

自分はどうしたいのかを考え、自分で選ぶ力ももちろん大切であり、また自分とは違う考え方や感じ方をする人に出会ったときに、



「自分とは違うから間違っている」と考えるのではなく、「そう感じる人もいるんだ」と相手を尊重できる人になることです。それがまさに「自律する力」と「人とつながる力」です。

「違い」はなくすものではなく、認め合うもの
子どもたちの「自分らしく生きる力」は学校だけでは育てられません。学校とご家庭とで一緒になって育てていきたいです。

「自分は自分のままでいい」という自分らしさを大切にするというのは、

「自分はすごい」と思うことだけではありません。もちろん「自分はできる」と自信を持つことも大事です。でも、できない自分も失敗した自分も、悩んでいる自分も含めて、「これが今の自分」と受け止めて「自分の気持ちを大切にしていいたい」ということです。

そこで大切なのは、日々の声かけです。講演会での、体感ワークであったように肯定的な言葉をかけられると、気持ちが明るくなって自信が持てるようになってきます。自分が大切にされているという自己受容感がうまれます。

子どもの話を最後まで聞く。「どうしたかったの？」と尋ねる。

失敗したときは、一緒に考える。子どもが自分で選んだことを認める。

そして、うまくできたときだけでなく、頑張ろうとしたことや、自分なりに考えたことにも目を向ける。そんな日々の積み重ねが、子どもの「安心」につながります。

「自分らしく 一生懸命に」生きる子どもたちを育てていきます。



参観日の感想では、たくさんの肯定的なご意見を聞かせていただきありがとうございました。

今後とも保護者・地域の皆様と一緒に「誰もが安心できる学校」を作っていきたいと思います。ご協力どうぞよろしくお願いします。